

平成27年6月2日
経済産業省特許庁

民間競争入札実施事業
商標審査前サーチレポート(商標の文字部に関する識別力等調査)
作成事業について(案)
(平成25年度及び26年度)

I 事業の概要

1. 委託業務内容

本事業は、出願された商標が商標法第3条に定める商標登録を受けることができない商標に該当するか否かの判断を行うため、商標を構成する文字部分から調査対象とする文字(以下「調査対象文字」という。)を特定し、調査対象文字の意味合い等について、特許庁が貸与する資料、一般的な辞書及び各種専門書などを利用して、商標としての機能を果たしうるか否か(識別性の有無)等、審査の判断材料になる資料の調査を行い、その調査結果(サーチレポート)を納入するものである。

2. 業務委託期間

平成25年4月1日～平成28年3月31日

3. 受託事業者

一般財団法人 日本特許情報機構

4. 受託事業者決定の経緯

入札説明会では5者の参加があったところ、入札参加者は1者であった。

商標審査前サーチレポート(商標の文字部に関する識別力等調査)作成事業民間競争入札実施要項及び入札説明書に基づき、入札参加者1者から提出された企画書について同実施要項に定める評価委員会において審査した結果、必須項目を満たしており合格との判断に至った。その後平成25年2月4日の開札において、入札価格が予定価格の範囲内であったため、総合評価方式にのっとり上記受託事業者が落札者となった。

II 確保されるべき質の達成状況及び受託事業者からの主たる改善提案に関する実施状況

1. 確保されるべき質の達成状況

(1) 調査漏れ等、納入物の品質に問題があると判明した案件数(フィードバック報告件数)

確保すべき対象公共サービスの質	平成25年度	平成26年度
審査官と同等の視点からの調査が必要となるため、実施件数全体の1%以内とすること。	0.004% 実施件数84,456件 のうちフィードバック件数3件	0.000% 実施件数79,800件 のうちフィードバック件数0件

(2) 成果物の納入

確保すべき対象公共サービスの質	平成25年度	平成26年度
成果物については、分割納入とし、原則週1回納入すること。	週1回納入	週1回納入

(3) 成果物の納期

確保すべき対象公共サービスの質	平成25年度	平成26年度
成果物については、特許庁が発注した日から2.5か月以内に、遅滞なく納入しなければならない。 なお、契約1年目の年度当初は、審査の遅延を回避するため、上記納期サイクルより極力短い期間(発注から3~4週間程度)で納入できる体制を整備しておくこと。	納入実績年間平均1.5か月 なお、平成25年4月及び5月については発注から4週間程度で納入。	納入実績年間平均1.3か月

(4) 早期審査対象の出願等の納期

確保すべき 対象公共サービスの質	平成25年度	平成26年度
早期審査、その他案件処理に 緊急性を要する出願として、特 許庁が個別に発注した案件に ついては、発注から2週間以内 に納入すること。	対象件数 0件	対象件数 0件

(5) 年間の納入回数

確保すべき 対象公共サービスの質	平成25年度	平成26年度
年度ごとにその納入処理を行う こと(約50回)。	全件年度内に納入。 (納入回数48回)	全件年度内に納入。 (納入回数50回)

(6) 1ロット当たりの納入件数

確保すべき対象公共サービスの質	平成25年度	平成26年度
出願数の動向から多少の変動はあるも ものの、1ロット1,680件程度の納入処 理が可能な実施体制を確保すること。	実施済み。 (平均1,689件)	実施済み。 (平均1,596件)

2. 受託事業者の改善提案に関する実施状況

(1) 業務の効率化について

受託事業者は、調査結果(サーチレポート)の作成や納入等に係る独自のシステムを構築し、その利用により業務の効率化を図っており、その結果、納入期間の短縮や実施経費の削減についても効果をあげている。(Ⅲ2.)

(2) 調査結果(サーチレポート)の品質向上について

受託事業者は、独自のシステムを活用した調査方法、業務に要される高い専門知識を修得させるための職員教育体制の確立及び納入物の校閲方法の改善により調査結果(サーチレポート)の品質向上を図っている。納入される調査結果(サーチレポート)の品質の高さは、フィードバックがほぼ無いことから裏付けられている。(Ⅱ1.(1))

Ⅲ 実施経費に関する状況(平成25年度及び26年度)

本事業における実施経費は「年間調査件数×1件当たりの単価」によって算出されるが、年間調査件数は外部要因である商標出願件数により毎年度変動することから、単純に実施経費を用いて削減効果を確認することは適当でない。

よって、契約単価を用いて従来経費と比較することとする。

	(従来) 24年度	25年度 ～27年度	単価当たりの 削減額	削減率
契約単価 (税抜き)	3,805 円	3,789 円	16 円	約0.42 %

<経費削減額>

(1)平成25年度及び26年度合計調査件数164,256件

× 単価当たりの削減額16円 = 2,628,096円

(2) 単年度当たりの平均削減額 1,314,048円 (▲0.42%)

Ⅳ 評価のまとめ

平成25年度及び26年度において、確保されるべき質として設定した目標については達成している。

また、受託事業者による業務改善提案の実施により、納入期間の短縮及び経費削減並びに調査結果(サーチレポート)の品質向上の点で効果を上げていることは評価出来る。

実施経費については、年間平均調査件数で従来経費と比較すると、単年度当たり1,314,048円 (▲0.42%)経費が削減されている。

Ⅴ 今後について

事業全体を通した実施状況は以下のとおりである。

- (1) 実施期間中に受託事業者が業務改善指示を受ける、業務に係る法令違反行為等を行った実績はない。
- (2) 次期事業以降、法律専門家等外部有識者で構成された「評価委員会」を設ける等、実施状況のチェックを受ける体制を整えることについて検討している。

- (3) 本事業の入札において応札者は1者であったが、これは本事業の遂行に必要な人員、能力及び設備等を備えられる事業者が限られているためであり、一定の者に対して有利となるような入札要件はない。
- (4) 対象公共サービスの確保されるべき質に係る目標を達成している。
- (5) 従来経費からの節減額は単年度当たり 1,314,048円 (▲0.42%)であり、効率的な業務運営により経費削減の効果が上がっている。

上述のとおり、本事業については概ね良好な実施結果を得られている。

しかしながら、入札が1者であったことを踏まえ更なる競争性の確保に努めていくことが必要と考える。そこで、説明会へ参加したが入札までには至らなかった事業者へその理由をヒアリングしたところ、「人員の確保ができない」ことがあげられていることから、仕様書にて定めている早期審査対象案件の調査は、外注せずに特許庁内部で対応することで、対応する人員の確保の条件を緩和することを検討している。

次期においても市場化テストを継続し、引き続き法の趣旨に基づき公共サービスの質の向上及びコストの削減等を図る努力をしてまいりたい。